

■ 書 評



あなたにもできる外国人への
こころの支援—多文化共
生時代のガイドブック—

野田文隆, 秋山 剛 編著
多文化間精神医学会 監修
岩崎学術出版社
2016年9月 216頁
本体価格 2,800円+税

2020年開催の東京オリンピックを意識して本書を手にとった。一般精神科診療に直接的な影響はないと願っているが、ともすると何らかの支障がある可能性はあるかもしれないと、一抹の不安を抱えたまま、特に対策も講じずにいた。また、行政や観光の分野では、オリンピック開催のPRにとどまらず、来日する外国人への新サービスが、ICTも駆使して展開されているように見えていた。本書を読むまで、医療サービスでは遠隔医療通訳サービスの開設に向けて試行段階にあることは知らなかった。

「あなたにもできる」の表題の通り、全編にわたり平易な表現で、通常精神科臨床の延長の「こころがけ」で論じられているので、外国人の診療に不慣れな支援者でも身構えずに読了し、即応用が可能な知識も多いと感じられた。

本書の構成も特徴的である。6章編成でパート1の「外国人への支援のイロハ」で概論が語られ、パート2からは、本人、配偶者、児童の立場と、パート3では留学生、難民、外国人労働者、国際結婚、中国語精神科外来の立場から、外国人への支援について述べられる。パート4は少し視点が変わりこころの支援者や団体を活用するコツとして国際交流協会、スクールカウンセラー、医療通訳、保健師、精神保健福祉士、心理士、精神科医とのかかわり、パート5では、多文化外来でのある1日のスケジュール、苦勞と工夫について実感を込めて語られ、パート6では少しだけ演習的に、外国人の事例が3~4行で提示され、どのような着眼点が必要となるかが書かれている。

国・地域ごとの記載ではなく、疾患ごと、あるいは外国人の診療を分担執筆でまとめているため重複する点もあるが、読みたい部分から優先的に情報を得ることができ、実際の診療での糸口をつかみやすい章立てであった。

具体的な相談窓口の案内が多くなされているのも本書の魅力で、付表には22の連絡先が記載されている。

所々で、知っているようで全く思いもよらない目から鱗の記載があり、国際結婚における法的な理由の夫婦の不均衡さや、不登校は日本以外の国でも多く見られる現象であるが、米国、欧州、ポルトガル語圏、アジアの一部の地域でかなり問題の受け止め方が違うことは、興味深い。概論の部分で、「文化の構造」について、18の項目に分けて論じられているのも、一冊の本で語るにはスケールが大きすぎる「文化」について支援者目線で、有用にまとめられている点が貴重と考えられた。また「通訳との協働のこころ構え」の部分も、今まで学ぶことのなかった観点である。

外国人のこころの問題は多様でつかみどころがないので、関心はあっても結局対応は難しいに違いないと、評者も尻込みをしていた臨床医の一人であったが、本書でさまざまな属性からの論説を読むうちに、繰り返し説かれている多様性の中の法則性も、「文化結合症候群」という一群が見えてくる。

何度か重要なポイントとして「シンプルな言葉遣いを心がけること」と、「わからないことは聞く」が多文化精神医学の専門家から異口同音に繰り返されている。多様なニーズ、文化的背景をもった人でもいくつかの原則を抑えて息の長い支援と、支援者の“Rescue Fantasy”に駆られた、むしろ「余計なお世話」の支援にならないための距離感の重要性が説かれている点が大きな学びであった。異文化への支援へ心理的な距離がある読者のこころに、一筋の自信の橋を渡す一冊と考えられた。

改訂版が出るならば、近年注目されるイスラム文化圏についての記載を希望したい。

(今村弥生)